

文部科学省（令和5年3月）の「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策（CO-COLOプラン）」では、3つの支援策の1つとして、「心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する」ことが目指されています。また、「生徒指導提要」（令和4年12月）では、生徒指導の重層的支援（2軸3類4層構造）の第3層に「課題早期発見対応」が位置付けられ、前兆行動が見られるなどリスクが高まっている児童生徒を早期に発見し、対応することが求められており、子どもの変化に気づくことが支援の始まりとして重要といえます。

夏休み明けの不登校

「不登校に関する実態調査―平成18年度不登校生徒に関する追跡調査報告書」（不登校生徒に関する追跡調査研究会、平成26年7月）によると、不登校経験者が学校を休み始めた時期は「4～6月」21.5%、「7～9月」28.4%、「10～12月」18.8%、「1～3月」9.7%、「わから

いと話していましたが、中学2年生の夏休みの部活中にトラブルが起き、Bさんが他の生徒から責められることがありました。顧問の先生が話をよく聞いてくれ、元気を取り戻したように見えました。部活の友達との関係はギクシャクしたまま、2学期の始業式を欠席するとそのまま学校を休むようになりました。△Cさんの場合△周囲からは明るく楽しい子と評価されており、勉強も学年の中でもできるほうでしたが、特に仲の良い友達はいない様子で、班決めなどには所在なげにしていることもありました。夏休み初めの個別面談では、自分の性格について明るいタイプではないと語り、親から勧められた高校の受験に不安を感じている様子でした。夏休み中は塾で忙しく過ごしていたようですが、夏休み明けから少しずつ休みが増え、9月末にはほぼ毎日休むようになりました。△Dさんの場合△以前から勉強に苦手意識をもっていました。宿題はきちんとやってくる児童でした。小学5年生の1学期に宿題をときどき忘れてくるようになり、授業中もはいつとしていることが出てきました。友達とは休み時間に元気に遊んでおり、そのときは明るい表情が見られました。夏休み明けの始業式を欠

不登校児童生徒への支援

第5回

夏休み明けに向けて ～子どもの変化への気づきを共有する～

慶應義塾大学教職課程センター・准教授 金子 恵美子

かねこ・えみこ 教育相談センター、フリースクールなどで心理士として活動。短大専任講師、准教授を経て、2020年より現職。臨床心理士、公認心理師。著書は「不登校―学校に背を向ける子どもたち」（ゆまに書房）、「子どもたちに『いのち』を死。の授業を―学校で行う包括的自殺予防プログラム」（学事出版）など。



変化に気づき、共有する

席したため保護者に連絡したところ、小学5年生の春に父が「うつ」で休職することになったこと、夏休み中に祖父が介護が必要な状態になって母も忙しく、夏休みの宿題のサポートができずに、宿題が終わらなかったことがわかりました。

4つの事例では、夏休み中の出来事が不登校の直接のきっかけになったと考えられますが、夏休み前から学習面、人間関係面、身体面、心理面、進路面などに前兆は現れており、もう無理がきかなくなつて欠席するようになったのがちょうど夏休み明けだったと考えられます。

子どもの抱える課題や問題を早期に発見し対応するには、日常の中で子どもの顔色や表情、言動、学習状況などを見て、「あれ？何かいつもと様子が違う」と子どもの変化に気づくことがまず大切です。子どもを支援するにはアセスメントを行い、計画を立て対応することが重要だと「生徒指導提要」でも繰り返し述べられています。観察や面接、心理検査などを通して子どもの問題を多面的に把握するようなアセスメントも必要ですが、日常の中で子どものささいな変化に気づくこ

子どもを支える要因を増やす

子どもへの支援を考える際には、子どもの登校を困難にしている要因の把握とともに、子どもを支えている要因や子どもの健康的な部分に目を向けることも重要です。Bさんは、学習面に困難を感じている中で、部活が楽しいことが支えになっていたと考えられますが、部活でのトラブルにより支えが失われることになりました。子どもの登校を困難にしている要因へ対応していくこと、子どもを支える要因を増やすことの両方の視点で考えることが支援につながります。

ない」19.2%で、「7～9月」の割合が最も高くなっています。休み始めた学年別に見ても、中学1～3年生、小学3、5年生と多くの学年で「7～9月」に休み始めた割合が最も高く、夏休み前後の子どもの状態や変化には特に敏感になっておくことが必要だと考えられます。

以下に、夏休み明けに休み始めた子どもの事例を4つ挙げました。（複数の事例を組み合わせて、一部改変しています。）

△Aさんの場合△中学1年生の夏休み前までは休むことなく登校していました。もともと人と接することや、自分の気持ちを表現することが苦手でしたが、中学校に入ってから友達に気を遣って合わせようががんばるうちに疲れを感じるようになり、学習にも身が入らなくなっていました。一番仲の良かった友達が夏休み中に遠方に引越すことになったこともショックな出来事でした。以前から頭痛や腹痛で保健室に行くことがありましたが、夏休み明けの頃には倦怠感もひどくなり、朝起きるのもつらくなつて、学校を休むようになっていきました。

△Bさんの場合△小学校のときから勉強は得意ではありませんでしたが、中学入学後はますます勉強が難しくなり、焦りを感じるようになりました。部活は楽し